



② / 一番好きな空間だと言う和室は、畳3畳分の小さなスペース。ここは、お客様をおもてなししたり、お茶をたてたりと自分らしく楽しむ場所。雪見格子が空間をより一層、特別なものになっている。

③ / ギャラリーの入口には、草木染めの作品がよく似合う。しっとりとした空間を照明が彩る。

④ / 天窓から差し込む光が美しい。京町家ならではの火袋に開閉式の窓を設置。夏は風が通るのがまた心地良い。



① / 広々とした空間はギャラリースペース。床は無垢の杉板を使用しているから、素足でも心地良く、京都の厳しい冷えも床暖房でとても暖かい。建具は古いものを探して使っており、京町家らしいレトロな雰囲気で溢れている。



⑤ / 通りに面した家だから、エントランスに路地を再現。京都らしさを家の中で作りだした見事な設計。

⑥ / 格子戸が印象的な京町家。京都の町によく似合う美しい佇まい。

My Home My Dream vol.1

あこがれのマイホーム。夢を叶える住まいのヒミツ。

この家をコーディネートしたのは…

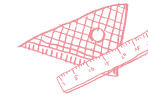
「美しい京都の町並みを未来へつなぐ」をコンセプトに、京町家のリノベーション住宅の企画・販売など、京町家の利活用でも実績の高い老舗不動産会社。

株式会社八清 カブシキガイシャ ハチセ

075-341-6321 (代)
〒600-8096 下京区東洞院通高辻上ル高橋町619番地
<http://www.hachise.jp>
●京町家の相談はお気軽に。
●内見会などの案内はHPをチェック!

この家を設計したのは…

STUDIO NORD
一級建築士事務所
北野 新吾



「京都が大好きで、いつか町家に住むのが夢でした」。そう言って微笑むTさんは、大正時代の町家をリノベーションして、憧れの町家暮らしを手に入れた。セカンドハウスとしてだけでなく、自身が作る草木染め作品を展示するギャラリーとしても活用。格子戸は防犯も兼ねた二重扉、エントランスに敷かれた石畳は、京都らしい路地を彷彿させる。「扉を開けた瞬間に、別の空間へと続くエントランスにしたかった」。リノベーションを担当した設計士は、イメージをヒアリングし、町家の良さを大切にしながらも、寛げる空間を生み出した。「知識やこだわりを持たずに、ライフスタイルの理想を伝えて、後はプロにお任せして大正解です」。自分らしく過ごす場所こそ、Tさんが憧れた京都暮らしなのだろう。